

「会員短信 70」

「受賞を祝す」

西野周次

先般、八木健会長の俳句と、切り絵作家の柳沢京子氏とのコラボ作品集「こっけい俳句に咲くきりえ」が、第三十九回愛媛出版文化賞の荣誉に輝いた。

八木会長は、本阿弥書店の月刊誌『俳壇』の滑稽句の選者欄を担当され、愛媛CATV放送の「八木健の俳句遊遊」「八木健の川柳天国」の企画、制作と司会も担当されている。二十年余りにわたって滑稽俳句の神髓を極めんとする様々な活動を展開される一方で、浪曲師・二代目広沢虎造の話芸の継承保存にも尽力されている。今回の受賞は、粉骨砕身、八面六臂の大活躍の集約とも言える受賞で、翼下の末席に身を置く私にとっても嬉しい快挙である。

この好機に、会長の既刊の句集四冊、『揚げ雲雀』『ゆず』『逃水』『怠けぐせ』を紐解いてみた。誰にも真似出来そうにない切り口と創造性。何でも無い素材や対象が、いとも簡単に名句に早変わりしていて、膨大な数の句も一気に読破させる魅力がある。言わば、会長の提唱する滑稽俳句のお手本の作品群である。折あらば、詳細な鑑賞を付したくもある。成程と誰もが得心するであろう句を拾ってみた。

切り分けし西瓜の塔に種の窓

薫風量産全山花蜜柑

引き抜けば家系図のやう落花生

拳銃があるやも知れず懐手

さへづりの樹下にさへづり女学生

一行の自分史を書きかたつむり

ぶち切れのごとくに弾け鳳仙花